

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境			0.40					3.3
1 音環境		2.7	0.15	-	-	-	-	2.7
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音		2.4	0.40	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		1.0	0.30	3.0	-	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.30	3.0	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-	-	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-	-	-	
2 温熱環境		3.2	0.35	-	-	-	-	3.2
2.1 室温制御		3.4	0.50	-	-	-	-	
1 室温設定		3.0	0.60	3.0	-	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	-	-	
3 外皮性能	外壁、屋上を外断熱とする	4.0	0.40	3.0	-	-	-	
4 ゾーン別制御性		-	-	3.0	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	-	-	
3 光・視環境		3.3	0.25	-	-	-	-	3.3
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-	-	-	
1 昼光率	昼光率 2.5%	5.0	0.60	3.0	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	-	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	-	-	
1 照度		3.0	1.00	3.0	-	-	-	
2 照度均斉度		-	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-	-	-	
4 空気環境		4.0	0.25	-	-	-	-	4.0
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	-	-	
1 化学汚染物質	建築基準法規制対象外材料を内装、天井裏のほぼ全面に採用	5.0	1.00	3.0	-	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		2.3	0.30	-	-	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	3.0	-	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	学校全体の禁煙を確認	5.0	0.50	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	-	-	3.5
1 機能性		3.4	0.40	-	-	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	3.0	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	3.0	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.5	0.30	-	-	-	-	
1 広さ感・景観		3.0	0.50	3.0	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	3.0	-	-	-	
3 内装計画	親しみのある雰囲気とするため、内装に木質系材料を多用	4.0	0.50	3.0	-	-	-	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	メンテナンスしやすい材料、塩害に配慮した材料を採用	4.0	0.50	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保	メンテナンスしやすい建築、設備計画	4.0	0.50	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.7	0.31	-	-	-	-	3.7
2.1 耐震・免震		3.8	0.48	-	-	-	-	
1 耐震性	重要度係数 1.25	4.0	0.80	-	-	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.33	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示基準の劣化対策等級2の性能を確保	4.0	0.23	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	長寿命の内装材を採用	4.0	0.09	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	VP管を採用	5.0	0.15	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	

2.3 適切な更新			-	-	-	-	
2.4 信頼性			3.6	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	吊配管	3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	基本的に節水型器具を採用、一部雨水利用有り	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	PHSの採用、電話引込みの2ルート化	5.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.6	0.29	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	階高 3.7m	4.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長比 約0.2	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		積載荷重 2,900N/m ²	4.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺に圧迫感を与えないようコンパクトな校舎とする	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	空地率60%程度、設備の屋外機は校舎屋上にまとめる	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物の熱負荷抑制		PAL値 161.2MJ/m ² ・年 (基準値 320)	5.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=44.3	5.0	0.30	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.8	0.15	-	-	3.8
1.1	節水	節水型水栓、便器を主体とする	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.6	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用有り	4.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63	-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉コンクリートを躯体基礎に採用	4.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生砕石材を基礎ビット用砕石として採用	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	国産のヒノキ材を採用	4.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	一部、可動間仕切を採用	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.22	-	-	4.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用	一部、対象法の対象物質を有しない木部塗料を採用	4.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-	
1	消火剤	ハロン消火剤は不使用	4.0	0.33	-	-	
2	断熱材	ノンフロン現場発泡ウレタンを採用	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2 63%	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照障害の抑制			3.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	日照障害の抑制	商業地域だが近隣商業地域の日影規制をクリア	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明無し、外灯は目的に応じた適切な照度を設定する	4.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	